

ハンドベースボールの授業をやってみませんか

—子どもたちとともにつくるルールづくりを—

文・構成・写真 岨 和正（そわ かずまさ／兵庫県淡路市立大町小学校）

みなさんは、ハンドベースボールの授業をどんな風にされていますか。今回は「みんながわかってでき、主人公になれる」ような「ハンドベースボール」の授業にしていくために、「3、4年生の子どもたちとともにつくるルールづくり」に着目して授業をしました。

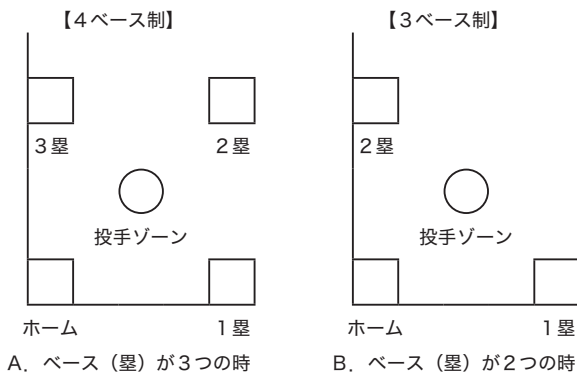


1. ボールとベース



■手で打つために、0号ソフトバレーボールを使います。ベースはいらなくなったざぶとんをリサイクルして使いました。

2. コート（例）



■ベース間の長さ、フェアークロウの広さ、投手ゾーンの円の大きさはゲーム人数や子どもの実態に応じて決めます。コートが変わればゲームの様相も変わることを学ぶのも大切です。（Bの場合はフェアークロウは90度にしなくてもよい。30度～60度もあり得ます。）

3. 子どもたちとともにつくるルールづくりのプロセス（わたしの授業）

◎【授業の最初の主なルール】

最初は体育館でゲームをしながら、わからないところがあるとストップしてルールについて話し合いました。【3ベース制】

ハンドベースボールの授業をやってみませんか

- ①投手はワンバウンドで投げる。打者は手で打つ。打ったボールがフェアゾーンに入るまで続ける。(三振はなし。)
- ②アウトになるのは次の時
 - ・打者がフライをあげて相手にノーバウンドでキャッチされた時
 - ・フォースアウトになった時 ・ランナーよりもボールが次の塁にはやくついた時
 - ・塁を離れたランナーに向かって、守り側の人がボールを当てた時
- ③攻撃は全員が打ったら、1回の攻撃が終わり、その間の得点の合計で競う。
- ④ランナーはリードなし。バッターが打ってからでないスタートできない。
- ⑤ランナーはピッチャーのマウンドサークルの中にボールがもどった時点で次の塁へ行ってなかったら、前に塁にもどされるがアウトにはならない。
- ⑥守るポジションはどこでも自由。



○教室で【最初のルールにつけ足したり、直したりしてみんなで相談してつくっていきます。】(子どもたちから出たいくつかの意見の例)

◇プレイに関して

- ①スライディングはしてもいいのか。
- ②走者が走っている時に相手のボールを受けるとセーフになるのか。
- ③盗塁をありにしてほしい。
- ④いつ、次の塁へ行って、いつもどったらいいのかがむずかしい。
(フライが上がって取られたらバッターはアウトだけれど、ランナーがボールよりもはやく塁にもどれなくてもセーフにする。つまり、フライを受けたときにボールデッド。→フライを取られてももどれなくてダブルプレーやトリプルプレーになることが多かった。)
- ⑤「攻撃は全員が打ったら、1回の攻撃が終わり、その間の得点の合計で競う」と「通常の3アウトで1回の攻撃が終わる」のと意見が分かれました。

◇体育館(グラウンドルール)について

- ①打ったボールが体育館の舞台上がってもどってこなかったらどうなるか。
- ②天井に当たったり、壁に当たったりするとどうなるのか。

◇コートに関して

- ①ベースを「4ベース制」にするのか、「3ベース制」にするのか意見が分かれました。

■上記のアンダーラインのルールについては、みんなで実際にやってみて比較しました。
(「9人全員攻撃制」と「4ベース制」が採用されました)



○教室で(単元の途中での話し合いで子どもたちから出たグループでの意見)

- ①「わたしもピッチャーさせてほしい」→ピッチャーをしたい子のローテーション制へ
「外野ばかりではイヤ。ボールもあまり飛んでこないし、もっとピッチャーで活躍したい」というAさんの声が出たので、1試合でどれくらいボールに触れているか、ポジションによってどれくらい差があるかを調べるために、(触球数調査)をした。調査をした結果、投手と捕手(バッテリ)が圧倒的にボールにたくさん触れていることがわかった。そこで、Aさんの声を取り入れられて「ピッチャーが1回ずつなげるローテーション制」ルールが採用されました。
- ②「投げる、受ける、打つ、攻める、守る」の練習がしたい。→みんなで練習計画を立てよう
「もっと上手になりたい」というBさんの声を取り入れられて少年野球部員(男、女)を中心に練習計画を立てて、自分たちでやってみることになった。3、4年生でも結構楽しんで自分たちで練習できることが分かった。この練習で技術や技能が向上し、ゲームの質が向上しました。

ハンドベースボールの授業をやってみませんか

③チームの作戦を立てよう

- ・ゲームのと中でタイムをとって作戦を伝えよう
- ・守りが後の方にさがっていたらバント作戦でいこう。
- ・ランナーを進めるにはゴロを打とう
- ・打つ順番を考えよう など



■ 審判（球審）がついて、バッティング（打撃）練習をする子どもたち。投手の練習をセットして練習しています。



4. 教材研究の窓

野球型（ベースボール型）の特徴は「イニング制」にあり、ある程度ボール操作ができるようになると、計画的・意図的な攻撃（戦術・戦略）が必要となってきます。また、それに対して防御はその計画的・意図的な防御（守備）が必要とされます。攻撃側は「いかに進塁するか」、防御（守備）側は「いかに進塁させないか」がポイントとなります。ここに野球のおもしろさの一つがありますが、サインを伴うベンチ采配がサッカーやラグビー以上に支配的であり、ゲームが高度化すればするほどルールも複雑となり、選手の自由度が制限されていく傾向にあるといってもよいので、子どもたちとともに教材化していくためには次の点を配慮したいものです。①「投球・捕球・バット操作」などの技能が他の球技と比べると難しく、運動経験の差によって技能やルール理解での差が大きい。②また、ゲーム中は「どこに打ったらいいか」「どこへ走ればいいか」「どこに投げればいいか」など、寸時のゲーム中の状況判断が求められます。

そこで、みんながわかってできて楽しんで取り組めるには、どのように教材化していけばよいかという視点で教材化し、授業をつくっていくことが大切となります。今回の授業での取り組みの紹介がその一助となれば幸いです。

■参考文献（詳細については下記の文献を参考にして下さい。）

- ①「たのしい・体育スポーツ」2012年5月号、特集「みんなのできる・わかるベースボール（型）の授業づくり」、「ハンドベースボール」の教材化に向けて、拙稿
- ②『運動文化研究31』2014年31巻、特集1 地域・家庭・学校で育つ運動文化と子ども、「学校体育実践と地域での少年野球で育つ子どもたち」、拙稿